

東日本大震災報告 田中千秋

はじめに

今年の3月11日に起きた東北・北関東地域で発生した大地震は、その後、東日本大震災として1000年に一度と言われる大津波に洗われ、原子力発電所のメルトダウンによる被害と続き、どのようにいつ頃までに復興の目処がつくのかもわからない状況であります。

現在、国・政府をはじめ地方公共団体や各種業界、市民が解決、改善に向けていろんな取組や施策を取り組んでいるところであり、私も全日本土地地区画整理士会の会員として「震災復興まちづくり研究会」メンバーとしてボランティアで震災復興のまちづくりのありかたを検討しています。

震災当日などの様子

大地震の起きた3月11日、私は東京都心におけるまちづくりの仕事で隅田川を走る水上バス（船）に乗っていました。

地震がやってくるちょっと前に、空模様が悪くなり、急に黒雲が立ちこめてきました。

以前に茨城県南地域から千葉県北部にかけて、ピンポン球サイズの大ヒョウが降ったときの空模様に似ていたところからいかな予感がしたものでした。

あにはからんや船上で大地震を迎えることになってしまいました。

地震が発生すると同時に船内アナウンスが響き、大きな地震が起きていることが伝えられ、窓から外を見ると陸地の景色がものすごく揺れていることがわかり、仰天しました。

地震発生直後から都内の電車がストップしましたので、私と一行は浅草で下船し、帰宅難民者として東京スカイツリーに係る区画整理事務所に緊急避難しました。

自宅は東京から江戸川を渡り、千葉県を通じて利根川を越した先の茨城県龍ケ崎市にあり、距離も都内から50キロ離れているので、

とても徒歩で帰れず、この緊急避難先で一夜を過ごすこととなりました。

翌朝、少しずつ動き出した電車に乗って茨城県の玄関口となる取手駅までたどり着き、残りは徒歩で午後3時過ぎにようやく自宅にたどりつくことができました。

自宅では、電気、水道そしてガスが止まり、家の中は家具や本そして食器などが散在していましたが、帰宅したときは家内が食器などの危険なものだけは片付けを終えて、水の確保などに奮闘しているところでした。

震災の影響

地震の被害は、地震による揺れや地盤の液状化現象、津波による被害それに加えて原子力発電所の事故による放射能汚染と日々、心配事が絶えない状況となりました。

さらに社会的影響、経済的影響など、東北や関東地方だけではなく、日本全体における大きな不安材料に発展してしまったといっても過言ではありません。

現地を見る！

まちづくりを検討する上で、どうしても生の現地を見ておく必要性にかられ、去る6月19日、20日に「震災復興まちづくり研究会」メンバーとして、現地に出かけてまいりました。次ページから4ページ分、撮影した写真を解説付きでご覧いただきたいと思います。

天文の話題でなくて恐縮ですが、田中千秋の別の一面を感じていただきたいと思います。



被災地にて筆者

大震災現地報告

田中千秋

6月19日 南三陸町



旧志津川町の様子：平野部は全ての建物が使用不能。コンクリート建築物のみが姿を残しているが、使用不能となっている



町の中心部：まったく片付いていない状況



公園：展示していたSLもご覧のとおり



高台の建物のみが助かった：

主要の通りは1本だけ通行可能で、往来は結構多いが、南部に向かう橋が落ちて仮設橋を架けており、交互通行（ガードマン付き）で、朝夕は渋滞する



片付けの重機もちらほら見受けられるが、本格的にはこれからという感じ。昼間に訪問したが、警察以外は人を見かけない



マンホール：下水道の配管を交換するため、材料の管が山積みされていた

石巻市



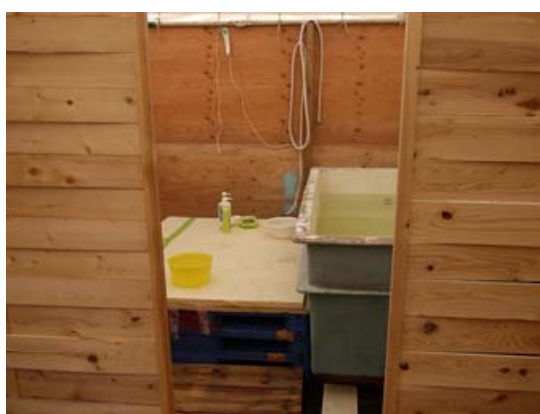
流されなかった住宅も使用不能



避難所の共同生活



船も陸に上がると弱い存在に見える



仮設でこしらえた共同浴場



一面津波にさらわれた



外で遊ぶ避難民



避難所：保育園が避難所になっていた

石巻市では漁港及び水産加工工場群などにも足を運んだ。漁港周辺には、魚などの腐敗臭がひどいと聞いていたが、じっさいは我慢できる程度の臭いで、準備していたマスクもつけないで現地を歩き、写真も撮った。

6月20日 仮設住宅



仙台市あすと長町地区内UR用地に建つ仮設住宅（宮城県土木部住宅課建設）サイズは、1DK、2DK、3Kの3種。入居率は約6割にとどまっている。



あすと長町地区内仮設住宅を新国道4号から望む。遠方は長町駅前の再開発ビル「たいはくくろ」。今後はグループホーム（介護職員常駐型）の建設を行う予定。



名取市内の仮設住宅（仙台市内とはメーカーが異なる）

仙台市

宮城野区蒲生地区



住宅は全て使用不能に陥っている

若林区荒浜地区



防風林の松林も乗り越えてほとんど全滅



基礎のみ残るが、基礎の下も陥没してすき間がある。日曜日のせい、ほとんど人影は見られず、片付けの重機が放置されているような印象で寂しさがたよう

名取市内



主要道路に新たに建てた電柱
いまだに警察官の手信号による交差点が多く
見受けられた



ゆりあげ
閑上地区唯一の高台である「日和山」。津波は
この山を乗り越え犠牲者を多くした。石の鳥
居は折れ、木製で新調されていた



日和山頂上から：ほとんど家は流されて、が
れきやゴミが片付けられた住宅地だった箇所
を望む。

わたり 亙理町



災害派遣車：こうした運搬車が、宮城県内の
がれきを亙理町などに集めている



鳥の海：護岸が崩壊している。名物「はらこ
めし」の食堂も今はない



がれきの山：分類されて山積みされている

連絡先 茨城県龍ケ崎市小柴 2-1-3-7-404

田中千秋（たなかちあき）

電話 090-6942-6361

Email : chiaki407@gmail.com